

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 市丸 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。学習指導要領の内容では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の平均正答率は善名国平均を上回っている。「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」は全国平均をやや下回っている。無回答率は全問題で0%である。
	よくできた問題	目的を意識して中心となる語や文を見付け、要約する問題や、話し手が伝えたいことの内容を捉える問題は、正答率が100%だった。
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題や、送り仮名に注意して、漢字を文の中でしく使う問題の正答率が全国平均と比べ、やや低かった。

算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均を上回っている。学習指導要領の領域では、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の平均正答率は善名国平均を上回っているが、「図形」は全国平均をやや下回っている。無回答率は1問を除き0%である。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係についての問題や、一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算する問題は、正答率が100%だった。
	努力が必要な問題	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題や、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を言葉や数を用いて記述する問題の正答率が全国平均と比べ、やや低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・朝食、就寝、起床などの生活習慣に関する質問では、肯定的な回答の割合が100%で、基本的な生活習慣が定着している。 ・「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的な回答の割合が100%で、自尊心が高いことがわかる。 ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、肯定的な回答の割合が全国平均より高く、人間関係が安定していることが学校に楽しく通うことにつながっていると考える。 ・「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問では、肯定的な回答が100%で、ICT機器を普段の授業でよく活用していることがわかる。 ・「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、「1時間より少ない」と回答した割合が全国平均より高く、「全くしない」と回答した児童もいる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 朝自習の「市丸タイム」を活用して、基礎学力の向上と既習事項の定着を図る。
- 学習の中で、自分の考えを書く時間や、キーワードをもとにめあてやまとめを書いたりする機会を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 食育の取組を通して、引き続き朝食の重要性や、栄養バランスの大切さについての理解を深めていく。
- 休日の学習習慣につながるような課題(宿題)について、家庭と連携して取り組む。